

錦江町産カンパチ・ヒラマサがブランド化 錦笑カンパチ・錦笑ヒラマサに決定

鹿児島県漁業協同組合大根占支所が錦江町産カンパチとヒラマサをブランド化し、販路拡大を図る目的でネーミングを募集しました。町内の小中学生から応募のあった289件の中から錦江中1年の篠崎那奈さんが応募した「錦笑カンパチ・錦笑ヒラマサ」が金賞に決定。今後は町内漁業活性化のために使用されます。



写真右から▶銀賞の横山知弘さん、金賞の篠崎那奈さん、銀賞の水口理沙妃さん。大根占小4年の浅澤凜音さんも銀賞を受賞しました。

自分で集めた花や葉っぱを布の上に置き叩いて模様を付けるエコプリントの体験も行われ、自分だけのオリジナル作品も制作しました。



町の草木で自分だけのオリジナル作品 桜染めワークショップで春先取り

3月20日に地域活性化センター神川で未来づくり専門員の吉屋和鼓さんが草木染めワークショップを開催しました。参加した6名は説明を受けながら、割りばしやビー玉を使用した模様の作り方や染め液で煮詰める工程を体験。桜の枝から抽出した染め液で鮮やかな桜色に染まった作品を眺め一足早い春を満喫しました。

認知症パートナー養成講座を受講するなど認知症フレンドリー事務所として認定されたお店に貼るステッカーの選定も行われました。



児童たちと交流しながら育てた花を展示 卒業生の旅立ちを見送る

3月24日に行われた大根占小学校の卒業式に「ゆうゆうカフェ」メンバーが育てたパンジーが展示されました。児童たちと交流を深めながら一緒に植え替えや肥料の追肥などを行い大切に育ててきたメンバー。卒業生でもある竹下榮さんは「花がきれいに咲いてよかった」と笑顔で卒業生30名の旅立ちを見送りました。

田代中では卒業生を代表して邊志切心菜さんが答辞を述べ、恩師や両親へ感謝の気持ちを伝えました。式典後は在校生に見送られ、写真撮影や名残惜しそうに談笑する姿も見られました。



錦江中と田代中で卒業式を挙行 感謝を胸に学び舎を巣立つ

町内2中学校の卒業式が3月15日に行われ、錦江中36名、田代中15名の生徒が3年間通いながれた母校に別れを告げました。中学生最後の制服に身を包み、成長した姿に目を細める恩師や保護者に拍手で迎えられ入場した卒業生。式典後も思い出の詰まった校舎前で別れを惜しみながらも、新生活に期待を膨らませた表情で歩みを進めました。

春の全国交通安全運動の初日に出発式 地域で協力して事故のない町を

錦江警察署で「春の全国交通安全運動」初日の4月6日に出発式が行われました。なんぐう交通防犯少年団が安全運転を呼び掛ける旗を持つ中、白バイを先頭にパトカーや青パト隊などが出発。大根占小6年の鶴崎寿裕くんは「事故が無くなってほしい。自転車に乗る時はヘルメットをしっかりと着ける」と力強く答えました。



県内の全交通事故のうち約1割が自転車による人身事故。ヘルメットの着用やルールを守るなど自転車の安全運転を心掛けましょう。

6年生9名が建設業の役割について学ぶ 神川小で建設業の出前授業開催

3月8日、神川小で建設業青年部会大根占支部が建設業の役割について学んでほしいと出前授業を初めて開催しました。児童らは仕事内容や砂防堰堤の大切さの説明を受けた後、高所作業車への搭乗体験やドローンの実演飛行も体験。田島あさひさんは、「人の安全を守っているすごい仕事だと分かった」と話しました。



森満章浩支部長は「道路や建物の維持管理や災害時に駆け付ける建設業の大切さを知ってほしい」と期待を込め話しました。

毎年、大雨や台風などの異常気象が発生している日本。他人事と考えず普段から災害に対し準備をしておくことが大切です。



田代小5年生が防災教室を受講 他人事と考えず普段から備えを

田代小5年生を対象に1学期より行われてきた防災授業が3月8日に行われました。最終回となる今回は災害時に備えて普段から自宅に揃えておく物の学習や防災についての知識を身に付けるためにカードゲームを実施。森咲花さんは「防災を学ぶことができた。自宅周辺のハザードマップを見直してみたい」と答えました。